



第六十八號 昭和三十八年五月十日 發行日 一月一回 定價 一年分 一元六角 郵費在內 發行所 東京市麹町區北區公會堂 同盟通信社

思想戦に就て

社長 古野伊之助

思想戦展開とその意義

思想戦檢討

われわれ同盟四千の同志は、前古未曾有の世界大變局に處してわが日本帝國のために、思想戦の分野を擔當してゐるのである。われわれは、われわれの擔當する思想戦の分野に如何なることをなさねばならぬかといふことをよく検討し、しかししてつかりした認識と覺悟をもつて、この任務の遂行に當つて行かねばならぬと考へる私はこれから、かうした機會のある都度、段々思想戦とニュースの關係とか、ニュースの思想戦における位置とか、ニュースが如何に國內に頒布され、さうしてまたこれが海外に如何なる影響を持つかといふやうな事について、順次検討を重ねて行きたいと思ふのである。

ここで思想戦といふ言葉を使ふのであるが、しからばその思想戦とは何か、思想戦は結局相手の思想を自分の思想に一致せよとする戦であるといふやうに私は考へてゐる。

大體大詔奉戴日が、あらゆる部局の諸君と一應顔を合せる機會であると思ふので、ここで段々一つ一つの問題について、私の考へを申述べておかうと思ふのである。思想戦とは何か、この頃思想戦々々と盛んにいふが、わが國における通信事業——對外的通信事業が始めて日本に生れた第一次世界大戦の當時においては、頻りに宣傳といふ言葉を使つた。今もなほ宣傳といふ言葉が残つてゐるがその當時は思想戦といふやうな言葉は一向出て来なくて、プロパガンダを翻譯して宣傳と稱して、世界宣傳に夢中になつた。

そこで思想戦といふ言葉を使ふのであるが、しからばその思想戦とは何か、思想戦は結局相手の思想を自分の思想に一致せよとする戦であるといふやうに私は考へてゐる。

そこで個人と個人との間には必ず一種の思想戦が間斷なく繰返へされ、一軒の家族の間にも、親子との間にはもの考へ方の相違がある。兎角、自分の立場、自分の感情利害などに捉はれて、もの考へ方は區々になりがちのもので、それが共同生活を營んで、一の目的を遂行して行くといふ場合にはお互にその相互の間によく同情を持ち、共鳴を進めて、さうして一つの目的達成に總力を結集して行くといふわけである。

そこでわれわれが今思想戦といふ言葉において検討しようといふことは、即ち國家と國家との間のもの考へ方の相違を一致せよとする戦である。

同盟同志四千が擔當する思想戦なるものは、内にあつては國民全體のもの考へ方を一つの方向に歸せしめようとするものであり、また外にあつては、まづ敵國のもの考へ方を日本の考へる方向に一致せよとする努力であり、その他中立傍觀などの立場に立つ世界諸民族全體をわれわれの固く信する方向に一致せよとする戦であり、争である。

戦争の責任者は米英

しからば同盟が展開しようとする思想戦、われわれ日本國民が全世界に向つて展開する思想戦の間にはどんな一致せざる點があらうかといふことを考へてみれば、もつとも手取り早い話が、いつたいアメリカは必ずこの戦争に負けると思つてゐるかどうか。もちろんアメリカは、この戦争は究極において必ず自國が勝つと思つてゐるに相違ない。

名古屋管内同報無線打合會議

同盟、名古屋通信局共同主催の同報無線打合會議は四月二十八日午前九時名古屋通信局において開催した。通信省側より電務局米田、東京通信局長大川無線課長、久光同僚長、東京中電原同盟分局長肥後、見川、河津、名古屋通信局長公文業務部長、堀田、放送、御園生保全課長、和布浦、中澤、平各係長、名古屋中電鈴木電信課長、名古屋、津、福井、金澤、富山、長野各同盟支社局受信擔當者、名古屋、津南電氣通信工事局代表等

争が續いても、日本國民は必ず勝つんだと確信してゐる。これら大きな思想の分裂があるであらうか。これを何でもかでも一致させなければならぬといふことが、われわれ日本國民がこれから全世界に展開する思想戦の一番大きな命題であると思ふのである。

またアメリカは米英側からみれば、日本がこの戦争を仕掛けたものであるといふ考へを持つてゐると思ふ。しかしながら、われわれからみれば、この戦争は、そもそも日本をして干戈をかつて起つたやむを得ざるにいらしたものはアメリカである。米英兩國の經濟的攻勢、經濟的侵略、日本民族の生存を根柢から覆へんとする彼等の侵略的意圖から今日の、この戦争が呼び起されたものと信じてゐるのである。明確なる思想の分裂である。

武力戦に併行

そこで日本の言分の正しいことを敵、米英兩國はもちろん、全世界の民衆をして納得せしめるまでわれわれは激進なる思想戦を展開して行かねばならぬ。

二十六名、同盟側よりは鷹野聯絡局長、福井通信部長、杉同報主任、潮海名古屋、古田同、日笠大阪、角道津、荒井長野、河津金澤、伊賀福井、樋口富山各支社長等十一名、計三十七名出席開會した。かくて先づ國民禮儀の後、潮海名古屋支社長司會のもとに同盟の使命と同報無線の利用状況、特に非常対策について鷹野局長の所感、開陳あり、米田本省、堀田名通、大川東遷、肥後見川、原中電、福井同盟の挨拶にならび報告につ

世界の何處へ持つて行つても、なる程日本のやつてゐることが正しいのだ、米英が東亞諸民族の生存を脅かすやうな經濟的脅威を加へ、このまま三年、五年推移すれば、結局日本をはじめとして、東亞の諸民族は永久に米英の東洋制覇の犠牲にならなければならぬ。それ故にこの地球の上に東亞の諸民族が、自己の生存を確保するために起ち、武力に訴へたといふことを、はつきりと世界の民衆に理解させねばならぬ。

いで議事に入り、一、非常対策に關する議案(遞信側七件、同盟側六件、計十三件) 二、業務改善に關する議案(遞信側三十四件、同盟側十九件、計五十三件) を熱心に討議した、午後六時閉會した。なほ右打合會議終了後引續き觀光ホテルにおいて懇親會を催した。

アンボン支局開設

モルッカ群島アンボン支局を左記に開設された。アンボン市仲通三十一號、同盟通信社アンボン支局

社長訓示 (前頁より)

全世界に展開

武力戦においても既に米英のあらゆる勢力を東部の天地から驅逐してしまつた。われわれのいふところは、この地球の上にその生存を営む二十一億の諸民族を一應納得せしめるやうな理論の上におかれてゐるのである。

理論の上においても、實力の上においても、何等間違ひがないといふことを納得させるまで、われわれの努力によつて、この思想戦を遂行しなければならぬ。

この思想戦は同盟の全機構を通じて全世界に呼びかけるのであるといふことをよく判つて頂きたい。政府の聲明や談話なども、われわれ四千の同志の晝夜を分たぬ活動によつて、これを全世界に宣布するのである。その経路なども、よく諸君に判つてもらはねばならぬと思ふ。(一月八日午前九時第十三回大詔奉戴式訓示)

思想戦とニ

ユース

事實の列舉

同盟郷軍分會

發會式近く舉行

本社に帝國在郷軍人會同盟分會を設立することとなり、かねて認可申請中のところ五月五日正式に認可された。社員にして在郷軍人たるものは居住地の分會に在籍のまま同盟分會の會員となり、教育は同盟分會で擔當するので居住地分會の教育演習には出席しなくてもよいこととなつた。

今朝は思想戦とニユースの關係

今朝は思想戦とニユースの關係について私の考へを申述べたい。われわれが思想戦といふ言葉によつて検討してゆかうといふものは國際間の思想戦であるが、この思想戦を展開してゆく方法は何によらなければならぬかといふことを考へると、結局その手段は事實の列擧である。事實の指摘であり事實の反響であり、事實の周知徹底である。この點に留意すべきだと思ふ。

何故この戦争が始つたか、根本の問題はアメリカが支那事變勃發以來の日本の國力消耗を信じて、最後まで經濟的壓迫をもつてすれば武力衝突にゆかず片づくだらうといふことを考へてゐたからである。これが大部分のアメリカ人の物の考へ方であつたと思ふ。

一方日本側においてはアメリカの經濟壓迫にそのまま屈服してしまつたら帝國の存立は危くなり、將來の民族の發展といふことは全然遮断されるといふ悲壯な場面に遭逢したのである。わが國としては米英のこの重圍を破棄する以外に途がなかつたのである。ここにも大きな根本的な思想の對立があるのである。

世界觀の相違

また國力といふものに對する相

發會式は近く舉行されるが、これに先立つて四月二十六日より甲乙丙の三班に分れ毎朝日比谷公會堂前の廣場で基本訓練を行つた。

集團檢診實施

同盟から呼吸器疾患を驅逐すべく傳研長谷川博士指導のもとに本社員は五月五、六、七、八の四日間、わたり集團檢診を行つた。長谷川博士は結核特效薬セファランチン發明の世界的偉業を完成された學者であるが、同博士指導のもと

互の評價に相違があるのみならず

世界觀に對する相違がある。アメリカは第一次世界大戦後全世界に占めたその地位、その經濟力などを恃んで、ひとり米大陸のみならずアジアにまで征服欲、制覇欲を完ふしようとして進んできたのであつて、そのアメリカの世界政策が帝國の存立、アジア民族の生存といふものとぶつかつたのである。そこで、この世界觀に關聯しても、日本とアメリカとの間には絶対相容れない對立があつたのである。

この思想戦をどうして展開してゆくか、われわれの信念、われわれの主張をどうして米英人に納得させるか、これがわれわれに課せられてゐる題目である。

日本の國力は支那事變によつて消耗したるにあらず、一億國民の結集した力は何年かかつても、この戦争に戦ひ抜き、勝ち抜く實力をもつてゐる。この事實を毎日起つてくる事象によつて明確に指摘するのである。

愚劣な大西洋憲章

歐洲戦争が始つてのち大西洋憲章と稱するものが出てきたが、これは全くの茶番狂言である。アメリカ政府が今日まで征服と侵略によつて得た自己の立場を將來と

とにセファランチンの供給を得て豫防乃至治療を行ひ得ば、四千同志は健康上の顧念の何%かを忘れて十二分に思想戦に奮闘出来る。

出版部だより

必勝の大道

東條總理議會演説答辯集 第八十一戰時議會における東條首相の一貫毅然たる演説、答辯、言明等を悉く蒐録編集したもの、五月十五日頃發賣(定價一圓廿錢)

も維持してゆくにはどうしたらよ

いか、この考へ方を基礎に作つた現状維持の方法を羅列したにすぎないのである。かやうな愚劣なものによつては世界の平和、國際相互間の正義といふものは斷じて確立することはできない。私は大西洋憲章よりも第一次世界大戦當時のウィルソンの十四ヶ條の方が、まだ國際的理想に燃えたものであつたと思つてゐる。

そこで日本の側においても、日本で勝手な世界觀、國際正義觀、世界平和の原則などを羅列してゐたのでは駄目である。どうしても世界の民衆をして一樣に納得せしめ得る理論を確立して、その理論にもとづいて思想戦を展開して行かなければならぬ。

世界の諸民族が一樣に理解できる原則を確立して、それによつて思想戦を展開してゆかなければならないと思ふ。

思想戦の原動力

ところで日本の實力を敵によく

徹底せしめると同時に、正しい理論、正しい主張を敵國民族に知らしめるにはどうしたらよいか、先程述べたごとく事實の指摘であり事實の列擧であり、事實の周知徹底でなければならぬ。

現實に日本の運命を擔つてゐる

政府當局者の言論、議會の論議、或は有力新聞の社説、軍の責任者の談話等、毎日發生してゆく事實を徹底的に敵國にもちろん、中立國、樞軸國などの世界の各民族に浸透せしめる。これが思想戦の手段である。かゝるいふ風に考へると結局この事實の指摘、事實の列擧、事實の周知徹底等が、即ちニユースであるといふことが出来る。思想戦の原動力はニユースである。

思想戦の砲彈はニユースである

思想戦を展開するにはニユース以外に或は藝術とか、音楽とか映畫とか、いろいろなものがあるが、多くは平時における手段若くは戦時に際しての補足的手段である。思想戦の根本をなす原動力はニユースである。その日、その日に發生する事件の報道、事實の報道、これによつ

て思想戦を展開するのである。ニユースこそ思想戦の原動力であり、思想戦の最大の砲彈であるといふ結論に到達せざるを得ないと思ふのである。

然らばニユースとは何かといつたやうな問題も、さらに検討を要すると思ふが、今日はニユースと思想戦といふやうなもの關係についての私見を述べて諸君の參考に供した次第である。三月八日第十三回大詔奉戴式訓示)

南信北語

歐米部長 井上 勇

南方で一年と半歳を暮してかへつて来て、先づ降立つた羽田の空は、私の胸をしめつけた。折柄の天候の寒さもあつたけれど、そこに肅然として、遺骨を迎へる無言のひと群の、きびしい統後の心構へといはうか、あたりを領する玻璃のやうに冷たく、張切つた空氣に思はず足が立ちすくんだのであつた。羽田から東京へ、家々は疲れて、街路は傷付き病んでゐた。白粉氣を洗ひ落して齒をかみしめた街の氣遣は、伸切つてゐた私の皮膚と神經とを無残なまでに緊め木にかけていたふつた。

思出の星

今、向ふは盛夏だらう。夜が明けると同時に眞午になる。ちつと腕を机において眺めてゐる間に皮膚の上にぼつぼつと汗の粒が浮きそれがやがて合さつて、洗れて肌の水肌がべつとりとぬれて来る。浅い午睡の夢から覺めれば、シーツの上には人間のかたち汗のしじりが滲つてゐる。サイゴンの街

こにかくし乍ら、いらいらしてゐる。この一年半の間には、南北八日の歴史的轉換の暦日とが私と本社とを引離してゐる。共に旅立つて永久にかへらぬ幾多の英靈の面影も立ちかたつてゐる。海のあなたの太陽の燃える國の想出と季節のうつかりかはりにすら眼を振り向けようともせぬこの國のひたむきな戦ふ姿の間に、ともすればこの身の置きどころもない落付きなさを感ずる。その時は眼を閉ちて街頭にただずまひ、机の前に端坐するほか手もない。

あの湖には水蓮があつたらうか
カムテンの安南娘と取りちがへて
の記憶だらうか。ぼつとほの明る
い黄昏とき、フランス娘の眼のや
うに澄切つた蒼い一線が天と地と
の間に横がり、晝間の汗も、シヤ
ワーに流してカフエーのテラスで
一杯のビール、そのビールも、も
早ないであらう——ハノイの街

下町の一面がひと際立って明る
く、その中にどよめくタマゴころが
し、ダンスのステップ、支那芝居
夕闇の中から狭帯をつたうてこ
まで、その騒音が運ばれて来さう
な錯覚に陥るが、このベランダ
は都塵を抜いて二千呎の雲の上、
脚下には夜目にもしるく白いちぎ
れ雲が流れてベンガル灣の波頭も
速く、耳をすませば松籟、邪心を
拂ふて肌にも渡る日本の秋の氣
配——ベナン・ヒルの社宅

三井、三菱より大きく立派なの
は怪しからぬとの抗議を一蹴して
確保された最近式建もの、昭南第
一を誇る大事務室の中では、いま
頃なほ明りが煌々と照つて、づら
りとシントリックに並んだ、木の
香も新しい机の放列からは、東京
放送を取るマライ・オペさんのタ
イプライターのキーの雨、記者諸
君は今ごろ、どこの社宅に集つて
放談してゐることやら。

パダンでは猿橋がたつたひとり
しよんぼりと、今夕餉を齎つてゐ
ようか。

スマトラ新聞の社長室には福田
義朗がどつしり入り込んで、州長
官への獻策でも練つてゐるだらう
牛島俊作は上野の西郷どんのや
うにクアラ・ルンブル丘陵のベラ
ンダからスレンバン盆地を睥睨長
嘯してゐるだらう。岩永信吉はま
だ「こちらはクアラ・ルンブル
放送局でございます」と兵隊さん
にニューズ放送をしてゐるだらう
か。それとも森の中の一軒家にか

へつて笛でも吹いてゐるかしら。
さういへば永井隆は、南のどこ
の島で多根の涙を流して、連絡員
諸君を叱咤激勵してゐるか。
福岡誠一先輩は眼鏡越しに、あ
の机は横にしようか横にしようか
と腕め廻しそれは明日の會議で決
定することにしてゐるだらうか。

福田一先生は「あつはつはムム
とかわいた笑ひ聲を立て乍ら、今
ほどの参謀と諒解を遂げつゝある
だらうか。津吉は相變らず、かん
らんかんらんと天井に高笑ひを噴出し
つづマライ軍政を糾弾してゐるだ
らうか。その横では吉澤正也が猫
背をして、眼玉を忙しく廻轉させ
つづ、さて誠一老に前借申込むべ
きか、申込まざるべきかを慎重熟
慮してゐることであらう。黒澤は
でんと腰を落付けて、片足を膝に
のつけつづ「福岡さん、それはさ
うですが……」と一席やつてゐる
ことであらう。

社宅に残して来た猫は仔を何匹
生んだらうか。福岡老は熱帯魚に
餌をやつて呉れてゐるだらうか。
女中は「こんどの旦那さんはこわ
い」と逃出しはしなかつたらうか
陳さんはすくみ上つて、どきま
ぎとどきまつてへまをやりはすまい
か。堂上も、ロイも、ジョンも相
變らずやつてゐるだらうか。燕清
とは挨拶もせず別れたが、何時ま
でもビールを冷やして待つてゐる
のではなからうか。

思想戦の武器

そして、眼を明ければもんべい姿
の故國の銀座がそこにあり、思想
戦の中核の海外局、編輯局のたぎ
る垣塙が眼前にある。南から歸つ
た同志の数々も、その渦巻の中に
熔込んで、別に眼立つこともなく
眼ざわりにもならず、渦と共に渦
巻いて不自然もなく、落付き切つ
て働いてゐるやうに思はれる。自

分一人が何時までも「旅心」を抱
いてこの渦のそとに外れ出さうと
してゐる。今は内から外をながめ
なくてはならないのに、門口にし
よんぼり立つて怖々と家内を窺見
してゐる恰好である。

私の部には約七十人の同志がゐ
る。太平洋、歐洲、米洲向けの英
語放送、歐洲向けの佛語放送、南
米向けのスペイン語放送、その整
理編輯が與へられた任務である。
そのほかに情報入手の〇〇山班も
この部の仕事である。
編輯から廻つて来るニューズ、
海外から直接入つて来るニューズ
これを各々の方向に向かうやうに選
擇し、整理し、翻譯し、電文化し
中電に廻すまでがこちらの仕事で
ある。

太平洋にのみ廻すべきものを、
歐米にまで廻してはゐないか。當
然共榮圏に必要なものが落ちては
ないか。不必要な饅舌を弄して
はゐないか。やがて始まるべき南
方開放送との兼ね合ひはどうする
か。支那の特別事情と南方の特殊
事情と同じ太平洋放送の上で如
何に調和させるか。さう云ふ不慣
れた仕事が一層、私を臆病にさせ
る。

マライ語で現地人教育

マライ派遣部員 仲村喜一
(元東亞部員)

健康御奉公

慰問袋が身に沁みる。兵隊にな
つて初めて解る氣持です。この
度の御芳志に對し社長殿はじめ職
員皆様に衷心御禮申し上げます。
小兵一昨秋應召以來、マライ、
スマトラの各地に轉戦、只今は軍
〇〇班の一人として、ここ南方推
進の中核地であり、微力ながら建
設戦の一役を擔つて御身御奉公致
しをります。

願う一年有半の兵隊生活、通譯
要員といふ特殊任務をもち、配屬
轉屬に追はれて文字通り變轉極り
なかつたため、今日まで社友同人

社長のいはる通り思想戦は、
總力戦の三分の一を占める重要な
戦線であり、同盟に課せられた任
務である。われ等はここの國家の負
託に十分報ひ、この戦争を勝ち抜
かねばならない。武力戦の戦線は
は至るところ、高らかなる輝かし
い凱歌が響りつつある。經濟戦線
また然り。思想戦線のわれ等は、
他の戦線の戦友にどうしておくれ
てならうか。

國內の同志も、海外にある戦友
も、どしどし、この戦線に新鋭武
器を送つてほしい。

諸兄にも御無沙汰してをりますの
で、この機会に改めて社報を通じ
て御挨拶させて戴きたいと存じま
す。

戦死の誤報

かつてはシ港攻略戦で戦死の誤
報さへ傳へられた自分だけに一入
感慨無量であります。社友の誰
かは今なほ小兵の戦死説をそのま
ま訂正されずにをられるかも知れ
ませんので、ここに重ねて小兵健
在、士氣軒昂なる旨御報せ致し
ます。

つたことと、今一つは蔡通譯とい
ふ同じ大隊本部内に小兵と相貌の
酷似した支那語の通譯が戦死し、
混戦のさ中とて小兵だらうといひ
ふらされたためだつたと信じてゐ
ます。身代り蔡通譯については、
その後戦死概況書を書き、懇ろな
葬ひを済ませたことが、まだ新し
い記憶として残つてゐます。

さて南方轉戦の跡を顧み、いづ
れから報告してよいやら——マラ
イ、スマトラの各部隊を轉々、今
日にいたるまでは餘りにも身邊多
彩であつた。牟田口部隊下にあつ
て蜿蜒一千餘キロの半島を南下し
てシ港攻略戦にいたるまでの戦闘
記について、詳しくする寸紙筆も
時間的餘裕もありません。ついで
スマトラに渡り、約十ヶ月滞在し
油田地帯においても獅子奮迅の活
躍をしたことですが、その建設戦
の諸段階についても詳細發表の自
由をもちません。

私は今軍〇〇班にあつて、任務
の遂行に邁進してゐますが、人種
を異にする住民を相手に共榮の道
を説く今の私の苦心は容易ならぬ
ものがあり、力足らぬことをつく
づくと感じざるを得ず、大過なか
らんことを祈りつつ懸命に努力し
てゐます。

でも去る日、當地の檜舞臺たる
〇〇劇場に現地人代表二千名の來
會を得て久振りにマライ語で講釋
する機会を得ましたが、これはこ
の種現地人への講演會が從來英語
でなされてきた慣習を破つてマラ
イ語を獻策した小兵の希望を容れ
られたか、否か、兎に角初めての
試みだつただけに頗る愉快な思出
として残るでせう。

マライ語を、この地では單なる土語
として蔑視するユーラシア人た
ひの住民もあるだけに、英語を解
するもののみがインテリだとの誤
つた考へ方をする現地人が少なく
ない。舊蘭印の現地人がマライ語イ
ンドネシア語)一點張りであるに
較べて、この地の宣撫工作が言葉
の上で如何に難しいかが解る。し
かし當地においても英語を解する
ものよりマライ語を話すものの方
が多いことは事實であります。

各界各層の現地人代表はいづれ
もマライ語を解するのであるから
われわれも努めて彼等の共通語た
るマライ語を使ひたい。さもなく
ば堂々と日本語でやりたいと思つ
てゐる。内地はもちろん共榮圏内
から米英色を一掃し、敵性國語を
追放しつゝある今日、この地でも
なほ道行的に英會話で現地人に對
してゐる邦人の鑿鑿すべき光景さ
へみられることもあるが、私は飽
くまで現地人にはマライ語で話す
べきだと信じてゐます。

一ツ星の兵として今次作戦に
参加以來、幾百千の山河をめぐ
りて、萬死を以て體得した経験の
數々は尊いものがある。過去一年
有半にニューズマンとして失つた
ものの餘りに多きを思ふ一方、得
たるところもまた計り知れないも
のあるを痛感してゐます。

平凡な解りきつたことやうだ
が、いつでも死ぬるといふ心境に
到達することが、人間としての修
養上如何に必要であるか、決戦下
一億無我精進の秋であるだけ、一
入痛感させられる次第です。
「死して罪科の汚名を残すこと勿
れ」有難い戦陣訓の一節が戦線を
馳騁して一層身にしみて感じたこ
とを御報告して慰問袋の御禮々々
私の南方便りを終ります。昭和十
八年四月五日同盟南方總局を訪問
して。

辭 令

經濟局内經 熊木 啓作
部運輸主任
經濟局内經部次長兼交通運輸主任
を命ず

滿洲國通信 中村 實
社勤務主任
本社へ歸還を命ず

編輯局調査 池田 雄藏
部年鑑主任
編輯局實質部電送主任を命ず
(四月一日附各通)

編輯局調査 池田 雄藏
部年鑑主任
編輯局調査部月報主任兼務を命ず
(四月十三日附)

經濟局内經 蒔田 宣敏
部商況主任
大阪支社經濟部商況主任兼通信部
查閱主任を命ず

各局主査擔當

松本海外、鷹嘴聯絡兩局長が新
に常務理事就任の結果、各常務理
事の本社各局主査擔當は次のごと
く決定した。

總務局主査 島山常務理事
編輯局主査 上田常務理事
海外局主査 松本常務理事
經濟局主査 堀 常務理事
聯絡局主査 鷹嘴常務理事

經濟局勤務社員 諏訪 穆治
經濟局内經部商況主任を命ず(四
月二十一日附各通)

關門支社
通信主任 水上 勇

小倉支局長を命ず
關門支社
勤務主任 小川 恒次

關門支社通信主任を命ず(四月二
十七日附各通)

編輯局寫眞 林十水而樂生
部電送主任
經濟局業務部業務主任
(四月一日附)

經濟局業務部業務主任
兼橫濱支局長臨時代理

松本兼吉
橫濱支局長臨時代理を解く(經濟
局業務部業務主任如故)
(四月十二日附)

編輯局勤務社員 仲 功
經濟局勤務を命ず(三月卅一日附)
京城支社同 中島 和夫
滿洲國通信社勤務を命ず

大阪支局勤務を命ず
廣島支局同 久保木菊伊
岡山支局同 江藤 隆夫

廣島支局勤務を命ず
札幌支社同 山崎 義明
岡山支局勤務を命ず

川崎支局勤務を命ず
福島支局勤務を命ず(四月一日附
各通)

海外局勤務社員 高橋 一雄
南方總局勤務を命ず

大阪支社勤務 藤林かずゑ
務准社員
中支總局勤務を命ず(四月十四日
附各通)

青森支局勤務 熊谷 正男
務社員
聯絡局勤務を命ず

小樽支局同 蒲田 義夫
札幌支社勤務を命ず(四月二十日
附各通)

名古屋支社同 宮瀬 廣
聯絡局勤務を命ず(四月廿二日附)

聯絡局同 藤崎 辰也
編輯局勤務を命ず(四月廿三日附)

福岡支社勤務社員、南支總局
臨時在勤 熊本 松次
歸還を命ず

福岡支社勤務を命ず
南方總局勤務 福原 信義

廣島支局勤務を命ず
編輯局同 安田 徳助

海外局同 原 進一
同准社員 寺内 武男

南方總局勤務を命ず
中支總局勤務 嘉納 履方

編輯局勤務を命ず
總務局勤務 廣畑滿佐子

准社員
經濟局勤務を命ず(四月二十六日
附各通)

總務局勤務 長田政次郎
編輯局勤務を命ず
大阪支社同(中
支總局臨時在勤) 浦上 冬彦
歸還を命ず
編輯局勤務を命ず(五月一日附各
通)

廣島支局勤務 瀨谷崎 孝
務社員試用
編輯局同 林 一郎

福岡支社勤務 平田 昌治
務社員試用
臺北支社同 鎌田 安夫

社員を命ず(四月一日附各通)
中支總局同 岸田 皖光

社員を命ず(五月一日附各通)
聯絡局勤務 高井 眞澄

准社員試用 脇坂 久人

盛岡支局同 橋本 キミ

同 工藤 キク

長野支局同 小山 幸照

編輯局勤務 二宮 博

同 齋藤 登

同 立石 富雄

准社員を命ず(四月一日附各通)
聯絡局同 塚田 清

准社員を命ず
名古屋支社勤務を命ず
藤沼 保

同 藤沼 保

准社員を命ず
京城支社勤務を命ず
宮澤 惠次

同 宮澤 惠次

准社員を命ず
札幌支社勤務を命ず
倉根 基次

同 倉根 基次

准社員を命ず
岡山支局勤務を命ず
古池 逸夫

同 古池 逸夫

准社員を命ず
高知支局勤務を命ず(四月一日附
各通)
佐賀支局勤務 岡 久子

准社員試用 岡 久子
准社員 京城支社同 安田 好江

編輯局調査部 彦坂 信男
月報主任兼務
長野支社勤務 倉澤 徳治
職員規程第十九條第二號に依り休
職を命ず(五月一日附)

札幌支社同 永草 克哉
編輯局同 伊藤 秀夫

長崎支局勤務 田中喜代子
務准社員
福岡支社勤務 山岸 嘉子

務社員
除州支局同 中野 正行

依願解職(四月十日附)
編輯局同 荒井喜治郎

依願解職(四月十一日附)
經濟局勤務 榊井 史江

同 榊井 史江

依願解職(四月十二日附)
神戶支局同 山内龜美子

聯絡局同 石倉 博

海外局勤務 武田 桃子

天津支局勤務 丸山 照代

秋田支局勤務 齋藤 榮

依願解職(四月十五日附各通)
金澤支社同 新田 良藏

大阪支社同 淺野 文夫

依願解職(四月十六日附各通)
濟南支局同 古木 國雄

依願解職(四月十七日附)
神戶支局勤務 廣岡 賀津

務准社員 廣岡 賀津

依願解職(四月十九日附)
大阪支社同 蓮井登志子

橫濱支局同 堀江 威

依願解職(四月二十日附各通)
海外局屬託 テッド・ダキ

依願解職(四月十三日附)
豐原支局 菅 福雄

依願解職(四月十七日附)
海外局同 馬 家 兼

依願解職(四月二十日附)
依願解職(四月二十日附)

職員規程の一部
改正
特別身分制を實施

今般職員規程中身分に關する項
を一部左の通り改正し四月一日よ
り實施された。

第九條ノ二 社員中ヨリ詮衡シ
テ參事又ハ副參事ノ特別身分
ヲ附與スルコトアルヘシ

右改正に伴ひ參事及び副參事を
四月一日附左のごとく發令された
(參事とす(以下各通))

堀本 義隆 川島信太郎

伊藤 勝司 船木 重光

麻生 林策 上村 藤吉

杉山善之助 藤川 覺

長林 密藏 杉田 才一

三藤 順記 波多 尚

堀本 安孝 萩野 伊八

長谷川才次 田中正太郎

大森吉五郎 佐藤喜一郎

淺野 豊 荻田 英祥

藤井信次郎 下條 雄三

西村 二郎 内海朝次郎

沼佐 隆次 小林猪四郎

秋山 慶幸 藤川 佐吉

長島 又男 倉田 正一

入江啓四郎 石井 文治

福井 賢 三輪 武久

瀨川伊和男 彦坂 竹男

加藤萬壽男 石田 貞一

結東武二郎 小寺 巖
松野 喜作 潮海秀之助

(名古屋支社) 堀本 數男

(關門支社) 田村 源治

(福岡支社) 龍谷 實

(臺北支社) 益崎 綱幸

(京支社) 山崎 義人

(秋田支局) 藤澤民之助

(廣濱支局) 牛腸 五郎

(富山支局) 二瓶 邦雄

(京都支局) 諸富 一郎

(神戶支局) 高橋 秀文

(熊本支局) 田端 一男

(北支總局) 河邑 光城

(中支總局) 佐々木健兒

(南支總局) 鹽見 恒明

(南方總局) 久保田清松

(福岡支社) 岩本 清

(關門支社) 横田 實

(青森支局) 高木 一實

(聯絡局) 福岡 誠一

(經濟局) 松宮 覺次

(總務局) 吉田 松治

(總務局) 小松 利一

半谷 高雄 豊島 清光
大尾久壽雄 木村 進
柘植 孝八 後藤 丙午
篠原 滋 小寺 信重
佐藤 剛 深澤 幹藏
宮本 基 森 元治郎
(海外局)
安達鶴太郎 大星 石松
中屋 健一 松本 金吉
飼手 馨四 牧内 正男
安保 長春 渡邊 秀雄
村山 謙 松尾 信
(經濟局)
熊木 啓作 蔭田 宜敏

寺西 吳郎 松本 兼吉
石川 道別 中住 繁夫
小野勝三郎 村木 政吉
森 莊三
(聯絡局)
竹市 信康 森 元治郎
周藤 清 藤川吉次郎
山内 保三 佐藤喜三郎
菊地久太郎 佐藤 泰
近藤 雨聚 奥地寛治郎
松尾 信
(大阪支社)
日笠多賀之助 横地 倫平
宗澤萬壽夫 砂田 純一

兒玉 正彦 高間 俊一
杉江 武夫 石川金二郎
岸 芳一 永松泰次郎
(名古屋支社)
古田 二郎 水上 勇
(關門支社)
矢野 勝一 東郷 正雄
(福岡支社)
荒川 穆
(京城支社)
中井 尚明
坂田 東助
(豊原支社)
坂田 東助
(函館支社)
(青森支社)
(盛岡支社)
(仙臺支社)
(新潟支社)
(長野支社)
(金澤支社)
(甲府支社)
(福井支社)
(和歌山支社)
(津支社)
(岡山支社)
白川 重吉
浅野重三郎
(廣島支社)
(徳島支社)
(松山支社)
(高松支社)
(高知支社)
(大分支社)
(佐賀支社)
(鹿児島支社)
(那覇支社)
(宮中支社)
(臺南支社)
(高雄支社)
(平壤支社)
(北支總局)
中村 敏
阿部 孫一
相原 一夫
松原 義信
前 農夫
植松 孝義
木村 孝一
(中支總局)

岡本 一男 秦泉寺清三
大塚 嘉次 白坂 正男
吉井 政司 豊田 治助
川崎 正雄 齋藤 烈
葛岡 常治 山田清一郎
神坂 鶴太 平柳 常雄
(南支總局)
坂田 寛藏
中村 信
久木 和雄
(南方總局)
久村 定雄
荻原 榮治
小原磯太郎
八木 久
上野 貞夫
高倉 義雄
水野 政直
坂口 榮
(ベルリン支局)
江尻 進
(羅馬支局)
池上 幹徳
佐々木稔一
坂田 二郎

石井 淳吉(編輯局) 第三子
明瀬 裕(同) 長男
小原 光志(聯絡局)死亡
鈴木 又次(同)長男死亡
山内 啓(編輯局)祖母死亡
伊藤 卓二(總務局) 長男
中村 豊(橫濱支局) 次男
南 金輔(中支總局) 長男
新井 正義(編輯局) 第一子
(應召、入營)
木村長四郎(聯絡局)
阪本 道一(同)
荒井 清(經濟局)
鹽谷 昇(南支總局)
岩野 昌彌(關門支社)
(見舞)
大澤 滋(海外局)病氣
龜井種治郎(經濟局)夫人病氣
綾野 政治(總務局)病氣
吉田哲次郎(編輯局)長男病氣
松尾登美子(總務局)病氣
鹽崎 義雄(同)三男、四男病氣
畑井 勇(海外局)病氣
村上 達(編輯局)同
吉原 一眞(同)同
富田市の進(同)同
豊田 清(同)同
綾野 政治(總務局)
(夫人、長男、次女病氣)
佐野 敏一(編輯局)病氣
齊藤 保(同)同
馬島 勇(同)同
條 康司(經濟局)同
岸江 憲一(海外局)夫人病氣
薄江 進(編輯局)病氣
大久保ヒサ(聯絡局)同
田邊 門司(編輯局)同
佐野 敏一(同)長男病氣
竹中 三郎(聯絡局)病氣
水内 淑子(編輯局)同
遠山キヨ子(同)同
山本 滋雄(經濟局)同
會田 國子(總務局)同
橋川 馨(編輯局)長女火傷
植木とし子(經濟局)病氣
峰間 信太郎(聯絡局)同
西嶋 義雄(聯絡局)夫人病氣
田村 行男(中支總局)病氣
渡邊 正二(北支總局)同
北川 武(同)同

稻本 國雄(經濟局)三女病氣
(弔慰)
小原 光志(聯絡局)死亡
鈴木 又次(同)長男死亡
山内 啓(編輯局)祖母死亡
伊藤 卓二(總務局) 長男
中村 豊(橫濱支社) 次男
南 金輔(中支總局) 長男
新井 正義(編輯局) 第一子
(退社)
丸岡 辰雄(大阪支社)
高畑 金正(編輯局)
椋谷徳太郎(經濟局)
近藤 泰雄(編輯局)
古屋 勝代(經濟局)
清水 清子(同)
杉本 律子(中支總局)
東島ミドリ(同)
桂 玉枝(同)
丹野 時枝(經濟局)
合計(件数) 〇八〇〇件
(金額) 五、〇〇〇圓

醫療費支給改正の要點

健康保險法改正にともなひ去る四月一日より左のごとく健康保險組合の保險給付内容が改正實施された。
一、被保險者の範圍擴大
從來月俸百圓以下のものとあつたのを百五十圓以下のものに擴大された。
二、治療は保險醫の手で
組合員は今後保險醫に治療を受けること、然らざれば醫療費を支給されない。その代り全國の醫師の九割くらゐが保險醫に指定される。
三、家族の醫療費支給擴大
從來は入院または一回十圓以上の處置および手術に限られてゐたが、今後はこの制限を廢し、すべて醫療費の約半額を支給される。
四、組合員以外の役職員
月俸百五十圓を超える職員または役員が保險醫或はその他の醫師の治療を受けた場合は組合員に準じ醫療費の約八割を支給され、またその家族が同様治療を受けた場合は組合員の家族と同様に醫療費の約五割を社より支給される。

職員養老保險金及び交付金受領者

本年一月一日職員養老保險實施以來四月末までにその恩典に浴したものの氏名は左のごとくである
一、病弱者にして保險契約不能のため本社積立金中より保險金に代るべき交付金を贈呈されたもの(單位圓)
松井善四郎(編輯局) 〇,〇〇〇
木村 勇藏(同) 〇,〇〇〇
小原 光志(聯絡局) 〇,〇〇〇
沖 篤(福井) 〇,〇〇〇
大峽 義雄(高知) 〇,〇〇〇
一、年齢超過のため保險契約不能により本社積立金中より保險金に代るべき交付金を受けたもの
伊藤 まつ(名古屋) 〇,〇〇〇
一、保險會社より保險金を受領せるもの
古田 喜代(海外局) 〇,〇〇〇

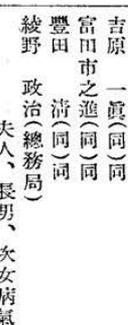
故福島正道君村葬

前海口支局勤務海軍々屬故福島正道君の村葬は四月十九日郷里熊本縣天草郡御所浦村民學校において嚴肅に執行された。横濱熊本縣知事その他の弔詞あり、同盟を代表して熊本支局上杉記者が參列古野社長の弔詞を代讀した。(熊本支局報)



互助會報告

三月分
△結婚
太田 誠(海外局)
辻 正二(同)
田中 功(編輯局)
今井 幸彦(同)
佐々木公庸(總務局)
巖 俊緒(同)
藤田 芳雄(北支總局)
大宮 康男(下關支局)
嘉納 履方(編輯局)
△出産
野口 勇一(編輯局)
平井 孝一(同)
小黒 大洲(同)
加藤 松(マニラ支社)
太田 恒彌(編輯局)
荒井善治郎(同)
川崎 正雄(中支總局)
第二子



對流圖

わが同盟では古くからの習慣で少年戦士を「ボーイ」と呼んでゐるが敵性語驅逐論の喧しい折柄、思想戦の最尖端をゆく同盟が眞つ先にこれを改める必要はないか。わが國名の呼稱「ジャパン」なる英語さへ「ニッポン」に改めさせた。「ゴザアマス」連中に一時盛んに用ひられたママ・パパも斷然影を潜めた今日、英語の使用地の昭南、マニラ、香港地ならイザ知らず、本社をはじめ内地支社局で敵性語を用ひるには當らぬのではなにか。第一ボーイなる語は社會通念的に列車の寢臺ボーイかホテル、食堂のボーイを連想させて光榮ある同盟の少年戦士は快しとせぬであらう。本社では「坊や」、「子供さん」等と呼ぶ人もあるが、坊やなんか親しみがあつてよいのでは從來の「ボーイ」なる呼び方は是非廢止して貰ひたいと思ふが如何なるものか (瀬川伊和男)

春八十和昭

職員鍊成の繪卷

報道戰士の熱血たぎる

四月三日の新聞休日 (大陸は翌四日)内外各地に繰りひろげられた同盟若人の鍛錬繪卷の豪華版!

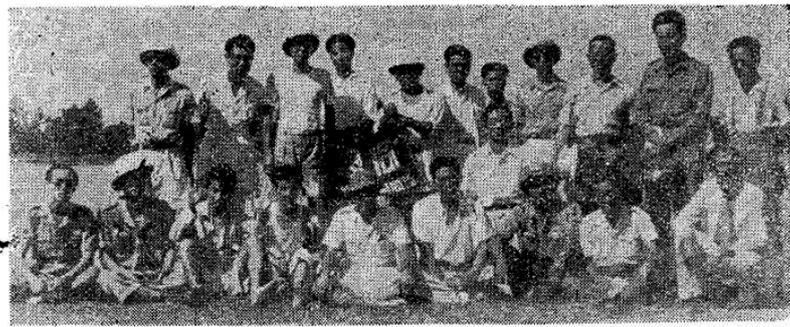
快艇を操り

メコン征服

ミトより

「アノアへ」

四月一日突如「美英遠征作戦命令」が発せられた。南の基地西貢らしく萬事軍除調で、輸送指揮官設置隊長、留守警備隊長などの肩



書もいかめしく、遠征地で宿舎難なら露營覚悟で「各自毛布を携行すべし」の命令が発せられたのも手きびしい。邦文に華文、佛文に安南文、この四本建の通信を發行、日本側の新聞休日に歩調を合せぬ佛印側新聞、ラジオを五日朝までカザアししようといふのだから出發前の忙しさは全く物凄しい。

美英は西貢から西南水路九十キロ(陸路七十キロ)西貢とメコンデルタ各地をつなぐ人口一萬二千の要衝で、古くはフランス軍に對する安南軍最後の反撃が此處で行はれ、皇軍の南部佛印進駐の直後大規模な住民の反亂があつた安南獨立運動史上名高いところ。近く佛印在住敵國人の收容所が出来るさうだ。

藤本輸送指揮官麾下の華文通信係華人六名を加へ篠原支局長代理以下隊員二十三名を乗せた船は日旭旗と同盟社旗をメコンの河風にはためかせてすべり出た。不斷仕事に追はれ、西貢に釘付けされてゐる者が多いだけに、メコン水路の風景は誰の目にも珍しい。「あれがココ椰子、こちらのがニッパ椰子」と時速五ノット、薪を焚いて水上を漫步する我が機動艇NVR四號の甲板で、時ならぬ自然科學の教室や南方社會學の講座がひらかれた。

美英着は十七時半、先行の太田設置隊長の奮闘で美英運動俱樂部の庭球場が會場に決定、佛印側の連絡將校I・シャノンンを招待して支那料理の野宴がひらかれた。シャノンはパリのソワール紙の記者だつたが召集され今では連絡將校をつとめてゐる男。「自分は會

つてエジプトにゐた。その時のんだのにくらべればこんなの全然問題外である」と頭から支那酒玉加支をけなしつけて来た。今夜の敵は正にこれである。全員突撃、この結果、庭球コートとトラックに日佛印對抗の百メートル競走が開始され、又「總督ドクターは駄目である。彼は背が低く、鼻で器量も悪い。だから彼に誰にも會はんのである」といふシャノンン先生の大演説がはじまるといふ風に敵陣はもろくも崩壊したのだつた。

明くれば四月。紺碧の空からバツと照り落ちる太陽の光はどぎつ眼を射るが、メコン・デルタの乾期とて朝の空氣は甚だ爽快である。朝早くから「敵國入收容所は何處に出来るか?」「市場は何處にあるか?」と市街索敵に飛び出した隊員や「西貢の新聞はどの位入つてゐる、日本側の雑誌の賣行きはどうか?」と文化調査にいそがしい隊員に集合を命じ美英岸壁を離れたのは十一時。昨夜の敵、佛印側の連絡將校シャノンンは姿を見せない。ホテルで彼の友人に聞くところ「毎朝早くホテルに来て食事をするのだが今朝は姿を見せなかつた」といふ。敵はまさにつぶれたのだ。

「何たる事ぢや、様子をさくつて来るべき處、逆につぶされたとはもつての他ぢやと、先生理事長官におこられるぜ」と我が船上ではしばし爆笑がやまなかつた。船はメコンの流れをさかのぼり間もなくアノアに着いた。アノアは美英より東南十二キロ、ココ椰子の集散地として知られるメコン河の中洲だ。

「何が来た?」島の住民は、はじめて見る日本人に驚き、恐る恐る寄つて来た。そして言はれるまゝに部隊總出で市場に集ると日本人は一人々にガリ版刷り通信を手交し「子供にも何かやらうよ」と

子供を一行に並べて十錢玉を配り安南語と支那語で通信を讀みあげたのである。逞しく建設進む南方共榮圏の躍動を傳へるニュースである。部落民がはじめて聞くニュースである。新聞休日の見學旅行は、一方では宣傳行たるべく作戦計畫が出来てゐたのだ。總出で集つたアノア部落の住民は、ニュースが讀み終ると一齊に手をあげて叫んだ。安南語と支那語の日本萬歳である。

かくてアノアを寄襲攻略した我が部隊は、此處で反轉、メコンの流れを下つて基地西貢に十七時無事歸投した。(寫眞は當日の記念撮影)

紫金山征服

靈國寺の庭内

京 南 緊張の後の慰安

上海から南京へ中支思想戦の基地を移動してから早くも五ヶ月、この短い期間に中國の歴史は一大切替へが行はれた。われら南京支局長はこの間、全く緊張のうちに職域奉公を完遂した。四月四日、このはりきり生活の小休止を利して紫金山の春景を賞しつゝ、一日の清遊を試みた。

昨年十二月の汪主席の訪日、本年一月の中國參戰、新事態に應ずべき國府新施策吊瓶打ちの發表など目まぐるしい變轉のうちに明け暮れた。そして東條首相の來華に次ぐ輝かしい還都三周年記念日には中國百年の宿望だつた租界還付が現實の貌で國府の手中に把握されたのである。



參戰以來の南京發電數は實に五百數十本を算し、さらに南京より上海向け電話送信分を加へると六百本に垂んとし、正に平時の一ヶ年間の送信量に匹敵する分量を僅か三四ヶ月で済ました勘定になる。

かうして日華關係に不滅の一頁を飾つた歴史的還都三周年の行事を終へると今までの緊張を一気に吹き飛ばし、次の新たな緊張に備へるべく、春花絢爛を競ふ紫金山々麓に一日の清遊を樂しむことゝなつた。

當日午前九時。雨上りの快晴に勇躍した紫金山縱走の一隊は櫻花咲き亂れる明孝陵を左に一路頂上目指してトップを争ふ。一方他の散策組の一隊はこれより一足遅れ

金 粟ヶ崎臺の 景觀を賞づ

澤 日歸り旅行

櫻に霞む粟ヶ崎臺へ、金澤支局同人は四月四日午前八時出發、日歸り旅行を試みた。加能越の峰巒を背に北海の波瀾く春々心粟ヶ崎の巖頭に立てば浩然の氣、沸々と胸にたぎるを覺ゆる。かくて一行二十五名、午後一時より遊園地の娯樂館で時局演劇を見物し、或は東三亭の大廣間で當會を開き、續いて男女二班に分れ男子組は腕角力やら、柔道に若き血を沸かし、女子組は輪談會を開いて情操を養ひ、一日の鍊成小旅行に心身ともに洗ひきよめた心地で薄暮迫る頃、全員揃つてサタ電にゆられて歸局解散した。(金澤支局報)

德 雨中の土佐灣

島 桂濱を採勝

德島支局春の鍊成會は四月三日高知桂濱採勝と決定、當日早朝五時といふに支局長以下一行九名は德島驛に集合、同五時二十八分發の列車で目的地に向ふ。德島、高知兩縣境に入つたころより風を交へて雨が物凄く降つてきた。濁流奇岩を嘯む大歩危、小歩危の景觀に驚異の眼をみはりつゝ、やがて十時二十八分高知驛に着く。まづ高知支局を見學、支局の窓越しに眺める高知城が雨に霞んで美しい。それより同支局の方の案内を得て雨中の灣内を小蒸汽船で桂濱に向ひ、太平洋の怒濤の彼方敵米國を睥睨する阪本龍馬の銅像に感慨を深め、雨々々の鍊成と見學を了へて德島驛に歸着したのは夜の十一時半であつた。歸途列車が德島驛領に入つたとき警戒警報が発令され、一同は報道報國の念を更に新にするのであつた(德島支局報)

この數々の出来事は南京—上海—東京の我が社無電連絡によつて内外にバラ撒かれたわけだが